

国道31号呉駅交通ターミナル整備事業

令和7年3月

呉駅交通ターミナル整備事業計画(概要)

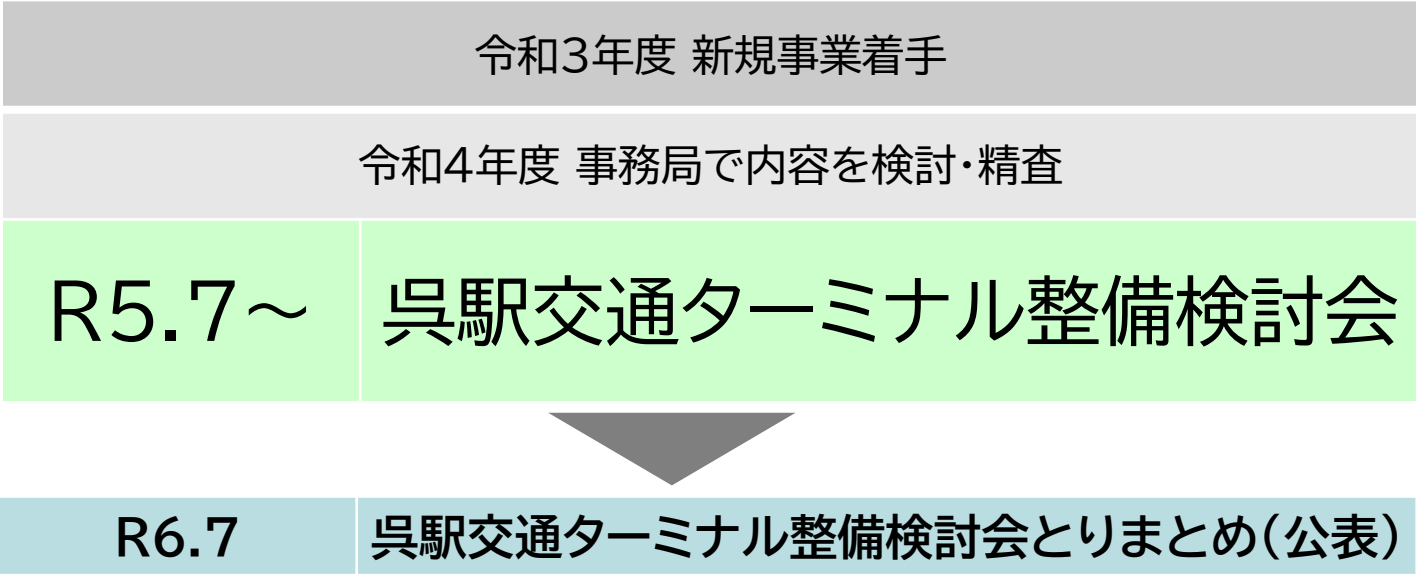
- 呉駅周辺地域総合開発について開発の基本的な方向性や整備すべき施設等についての提言をとりまとめた「提言書」や、開発のビジョンなどを示した「基本計画」の策定を経て、呉駅交通ターミナル整備事業の「事業計画」を公表しました。



呉駅交通ターミナル整備検討会の設置

- 令和3年3月に策定した事業計画の具体化を図ることを目的に、呉駅交通ターミナル整備検討会を設置・開催しました。
- 有識者をアドバイザーに迎え、官民学のそれぞれの立場から交通ターミナルやデッキなどが担うべき機能及びそれぞれの形状について検討してきました。

■呉駅交通ターミナル整備事業の検討経緯



■開催状況



整備検討会

■アドバイザー、委員一覧

アドバイザー			※所属・役職は就任当時
(五十音順 敬称略)			
呉工業高等専門学校	教授	神田 佑亮	
一般財団法人 道路新産業開発機構	主席研究員	鈴木 克宗	
東京大学 大学院 工学系研究科	教授	◎ 羽藤 英二	
広島大学 大学院 先進理工系科学研究科	副研究科長 教授	藤原 章正	◎:座長

委 員		
整備局	中国地方整備局	道路調査官
	広島国道事務所	所長
市	呉市	都市部 部長
関係者	西日本旅客鉄道株式会社	中国統括本部 経営企画部 課長
	一般社団法人広島県タクシー協会呉支部	部長
	呉駅構内タクシー協会	会長
	広島電鉄株式会社バス事業本部	バス輸送営業部 部長
	中国運輸局	交通政策部 交通企画課 課長
	広島県地域政策局交通対策担当	課長
	広島県土木建築局道路企画課	課長
	広島県警察本部 交通部 交通規制課	課長補佐
	広島県呉警察 交通課	警部補
	清水建設(株)	ECI設計業務 代表者
	くれみらい	五洋建設(株)中国支店 建築営業部 担当部長

※事務局 広島国道事務所計画課及び呉市都市部呉駅周辺事業推進室

呉駅交通ターミナル整備における4つの主要機能及び整備効果

4つの主要機能を持ち、まちの魅力とひとの交流をつなぐための駅前広場の整備を進め、
「交通まちづくりとスマートシティの発信拠点」となる交通ターミナルを目指します。

4つの主要機能

○交通ターミナル

- 便利で安全なバリアフリー動線を形成し、多様な交通モードをシームレスにつなぐモビリティハブを整備(図1)
- 社会のニーズを踏まえながら、一般車エリアを柔軟に使い分けできる交通ターミナルを整備
- アーバンデザインセンター(UDC)と連携した待合空間を創出
- 国・呉市・民間が一体となった管理運営を実現



図1 多様な交通モードをシームレスにつなぐモビリティハブ

○デッキ（駅前広場）

- 上下方向の歩行者動線を導入することで、歩行者・自動車の輻輳を解消
- シンボリックな庇を設置し、複合施設と連携した賑わい空間を創出(図2)

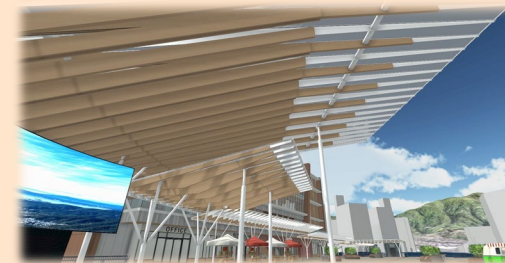


図2 シンボリックな庇 / 複合施設と連携した賑わい空間の創出

○次世代モビリティネットワーク

- 自動運転化への対応や次世代モビリティの拠点として運用(図3)
- 段階的なモビリティネットワークの進化に併せて、誰もが使いやすい環境を創出



図3 デッキへ乗入れる次世代モビリティ / 連節車両や自動運転・隊列走行車両が発着するターミナル

○防災拠点

- 災害時は「防災と交通」の拠点として機能
- 複合施設と連携した一時的な避難場所、物資、情報提供機能の確保
- 関係機関と連携して、災害時の情報を発信(図5) (図4)



図4 給水スポット設置



図5 災害時の情報発信

期待される整備効果

呉駅周辺地域の
交通流円滑化

交通ターミナル
利用者の利便性
・安全性の向上

災害時における
防災機能の向上

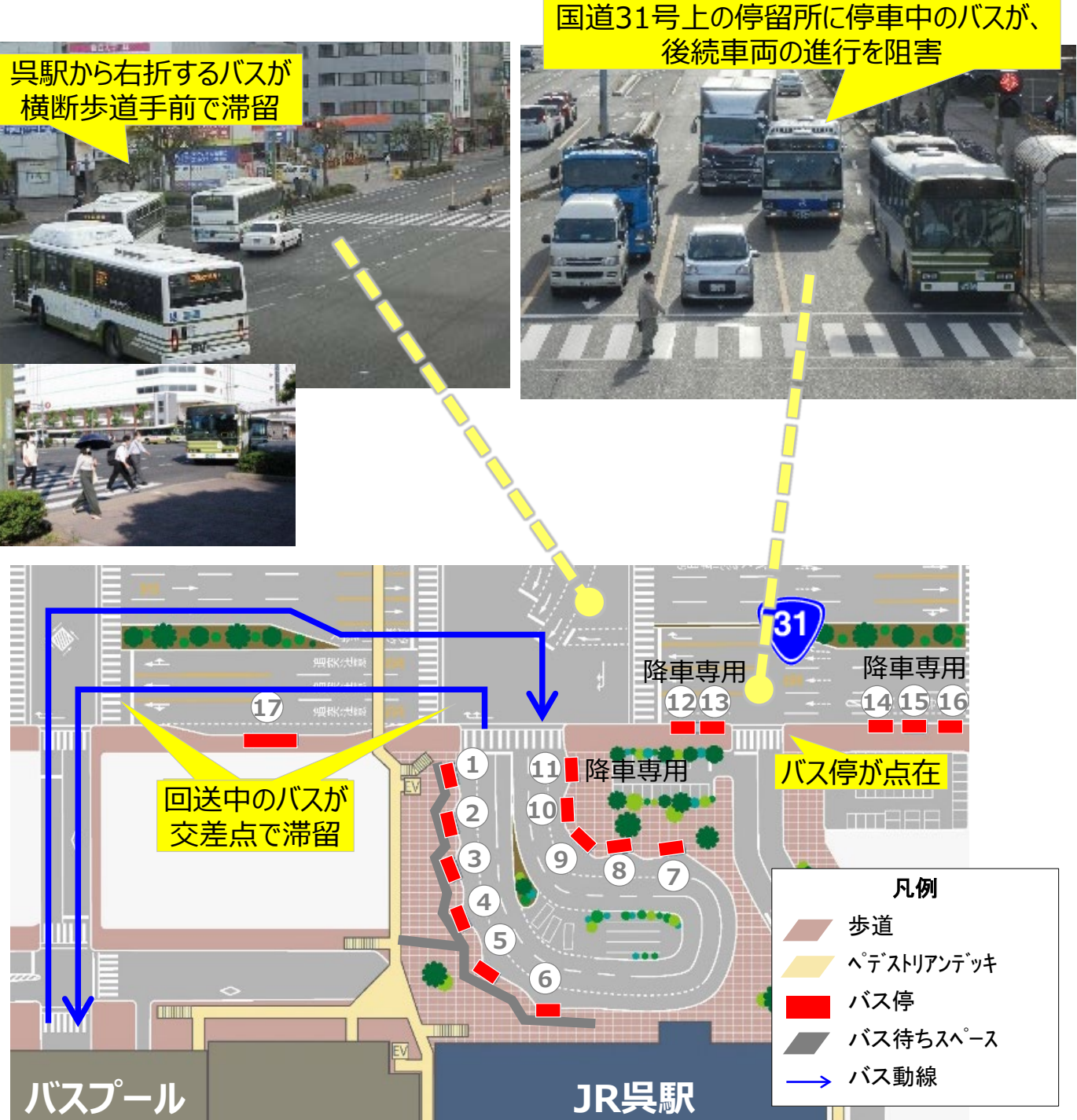
新たな技術・
サービスの発展

地域経済の活性化

整備効果① 呉駅周辺地域の交通流円滑化

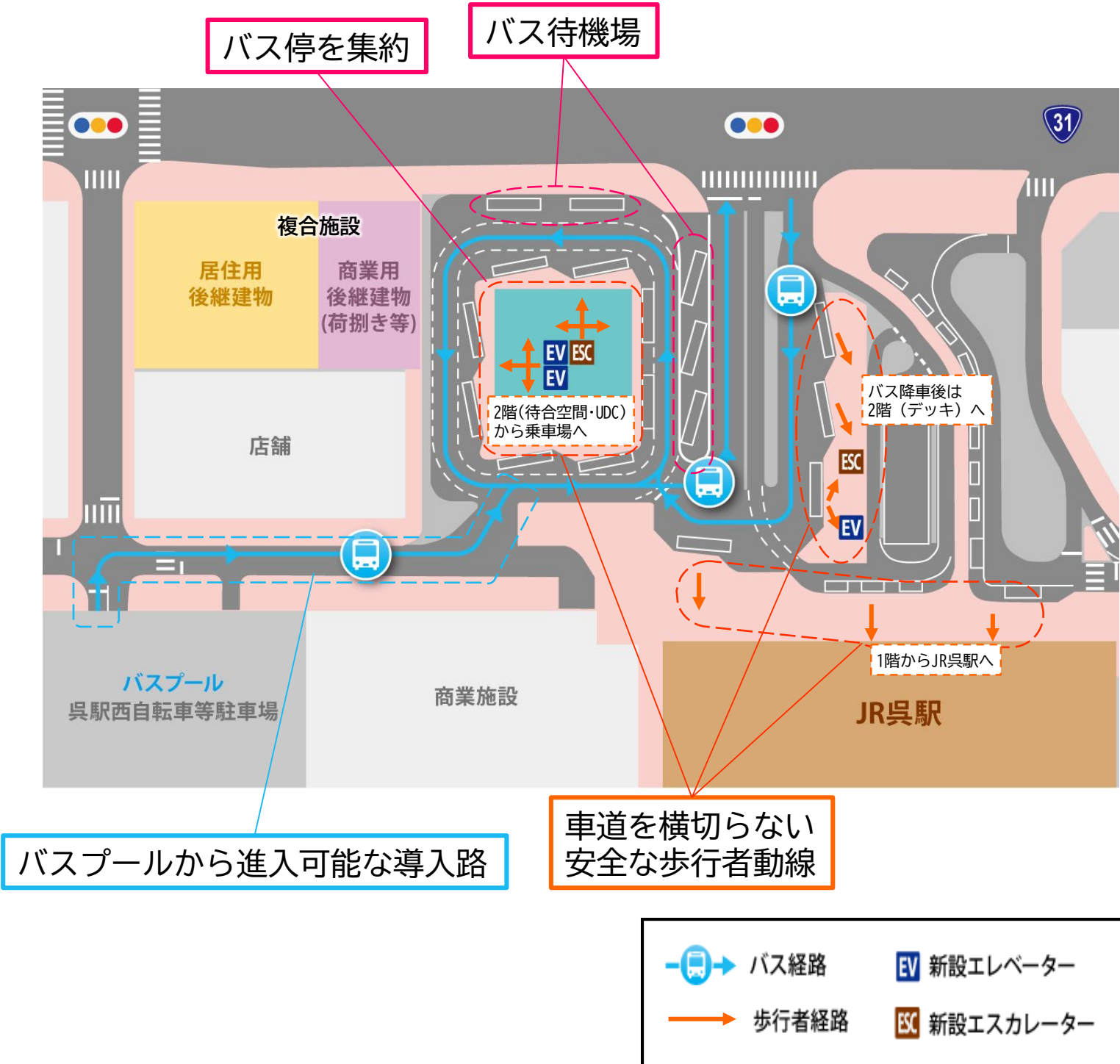
- 呉駅周辺では路上停車するバスによる後続車の阻害や、車両と歩行者との輻輳が発生しています。
- バスプールを直接つなぐ導入路を活用した回送バスや呉駅右折進入バスの滞留解消と、バスプール周辺の交通錯綜解消によって、交通流の円滑化が期待されます。

課題：呉駅周辺での交通の輻輳



※一般国道31号呉駅交通ターミナル整備事業の整備効果について(広国HP)より抜粋

交通ターミナルI期整備（一般車出入口分離）

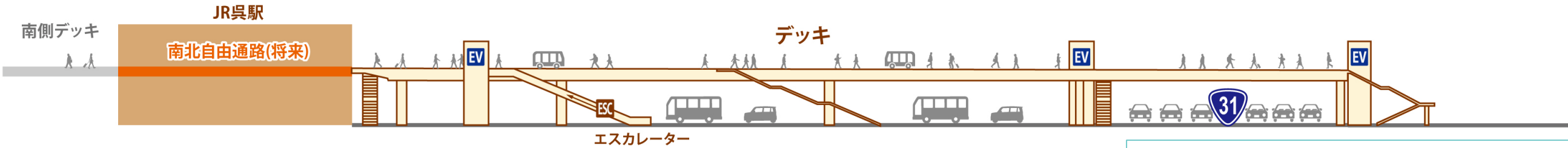


※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。 4

整備効果② 交通ターミナル利用者の利便性・安全性の向上

- デッキや待合空間等の呉駅周辺整備により、利用者の待合環境の改善や利便性・移動快適性の向上が期待されます。
- シームレスな移動やユニバーサルデザインの導入によりバリアフリールートを確認します。

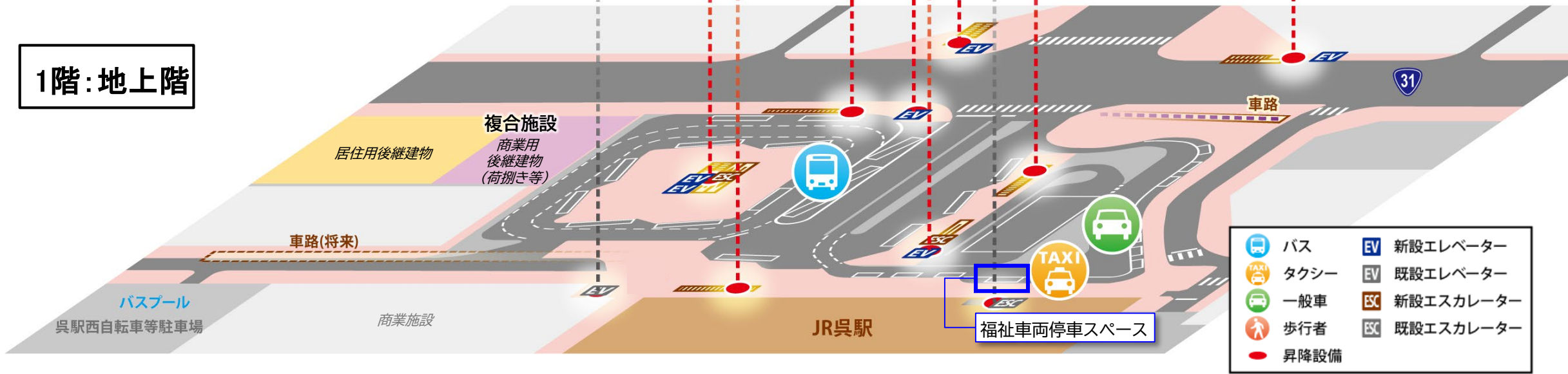
断面図



2階：デッキ階



1階：地上階



複合施設のイメージ



待合空間・UDCのイメージ



※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

整備効果③ 災害時における防災機能の向上

- 交通ターミナル整備によって、災害時の代替輸送（緊急輸送バス）の発着機能や情報発信機能の向上が期待されます。
- 呉市地域防災計画と整合を図りながら、平常時に待合空間などとして機能する空間を、災害時には、一時的な避難場所、帰宅困難者等の受入空間として活用することによって、地域防災機能の向上が期待されます。

■ 災害に備えた防災機能の強化

- 平成30年7月豪雨災害による道路や鉄道等の被害を教訓として、交通基盤の強靱化が必要となっている。
- 呉駅周辺は緊急輸送バスなどの発着場所になったものの、利用者の集中による混雑や運行情報等の速やかな情報発信など、呉駅交通ターミナルにおいても地域防災機能の強化が求められる。

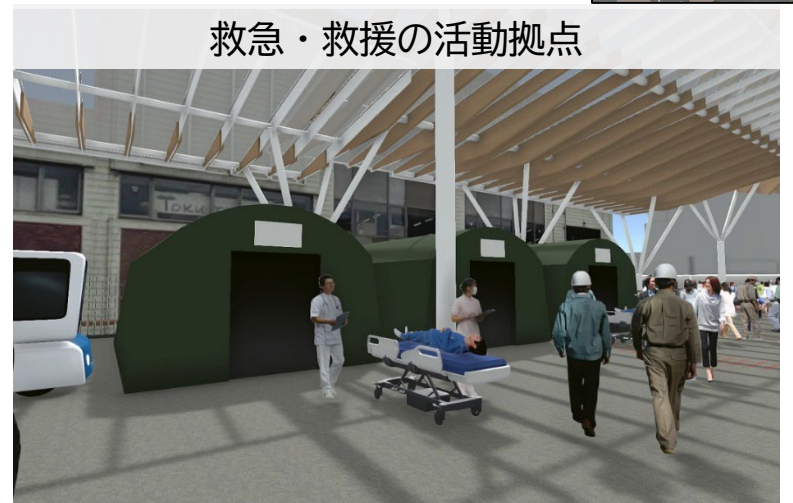


出典) 国土交通省 第2回バスタプロジェクト推進検討会 配付資料「資料6-1 神田委員資料」

- 市内各地や市役所で給水スポットやボランティア拠点が機能しており、呉駅交通ターミナルにおいても今後の災害に備えた防災拠点として、さらなる機能強化が求められる。



■ 災害時の機能例



呉市等と連携した物資備蓄

- 発災直後の備蓄(3日程度)は、民間開発事業者と連携協定の締結を想定(呉市・民間開発事業者)
- 備蓄スペースは、呉駅西共同ビルの利用を想定(呉市)

整備効果④ 新たな技術・サービスの発展

- ・次世代モビリティの導入やICTを活用することによって、多様な交通モードの連携（MaaS）を促進します。
- ・呉市により交通社会実験が行われ、次世代モビリティの受入拠点として、地域の機運が醸成されています。

■次世代モビリティの受入機能



呉市 R5・R6交通社会実験の様子



呉市 都市部 呉駅周辺事業推進室

次世代交通モードの変化を先取りする社会実験等を展開し、自動運転車両、連節バス、隊列走行車両、次世代モビリティ(小型)、パーソナルモビリティなどの次世代モビリティの受入拠点としての機能を強化

※次世代モビリティが発着する場所には、屋根、ベンチ、サイン等を検討します。

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

■モビリティハブとしての活用イメージ

待合空間・UDCからスマートフォンでモビリティを予約



予約を受けたモビリティが車路を通じてデッキへ乗入



MaaS※¹やシェアリングモビリティ等の新たな技術導入を見据え、待合空間からスマートフォンで次世代モビリティ(小型)を予約し、デッキ上でモビリティに乗車する等のモビリティハブ拠点としての機能を強化

※¹ MaaS(マース: Mobility as a Service)とは、地域住民や旅行者一人一人のトリップ単位での移動ニーズに対応して、複数の公共交通やそれ以外の移動サービスを最適に組み合わせて検索・予約・決済等を一括で行うサービスであり、観光や医療等の目的地における交通以外のサービス等との連携により、移動の利便性向上や地域の課題解決にも資する重要な手段となるもの。

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

整備効果⑤ 地域経済の活性化

- ・ 呉駅周辺整備と連携した賑わい創出、街の魅力向上によって、地域経済の活性化が期待されます。
- ・ 複合施設内において様々な店舗や機能の展開が検討されており、デッキ整備と相乗的な賑わいが期待されます。

様々な情報を発信する大型ビジョン 呉の玄関口として人々を迎え入れるシンボリックな庇



複合施設における子育て支援施設等



資料提供：呉市 呉駅周辺地域総合開発

至 広島市

交流や休憩ができるベンチ



呉駅接続

待合空間・UDC

商業用後継建物 居住用後継建物

複合施設

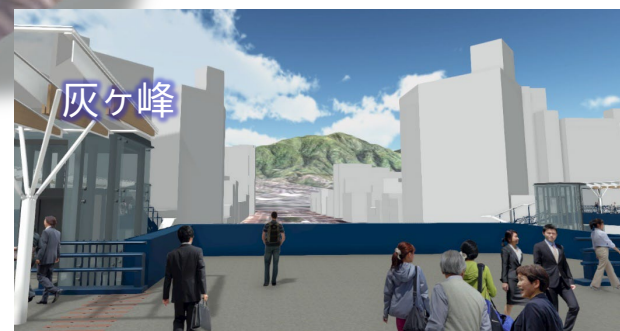


移動販売(キッチンカー等)による賑わい

今西通り方面

至 三原市

市役所・れんがどおり方面



灰ヶ峰を見渡す眺望

「人とロボットが創造する未来」実証実験

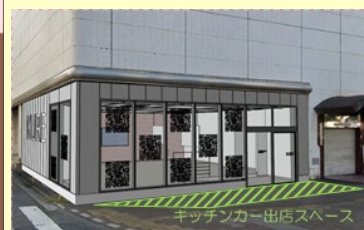
- 期間：令和6年11月25日（月）～ 令和7年1月31日（金）
- 場所：
 - ①アーバンデザインセンター準備室（呉駅西中央ビル）
 - ②呉市役所本庁6階
 - ③呉市役所本庁1階シビックモール



呉市 都市部 呉駅周辺事業推進室

キッチンカーと公共空間を活用した実証実験

- 期間：令和7年1月23日（木）～ 3月21日（金）
- 場所：
 - ①アーバンデザインセンター準備室（呉駅西中央ビル）



呉市 都市部 呉駅周辺事業推進室

※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

コスト増加の要因

- デッキ形状の変更、ターミナル利用者の利便性を考慮した構造を追加により、130億円のコスト増加が生じました。
- 呉交通ターミナル 総事業費（増額後）：210億円 今回増額：130億円（約163%増）

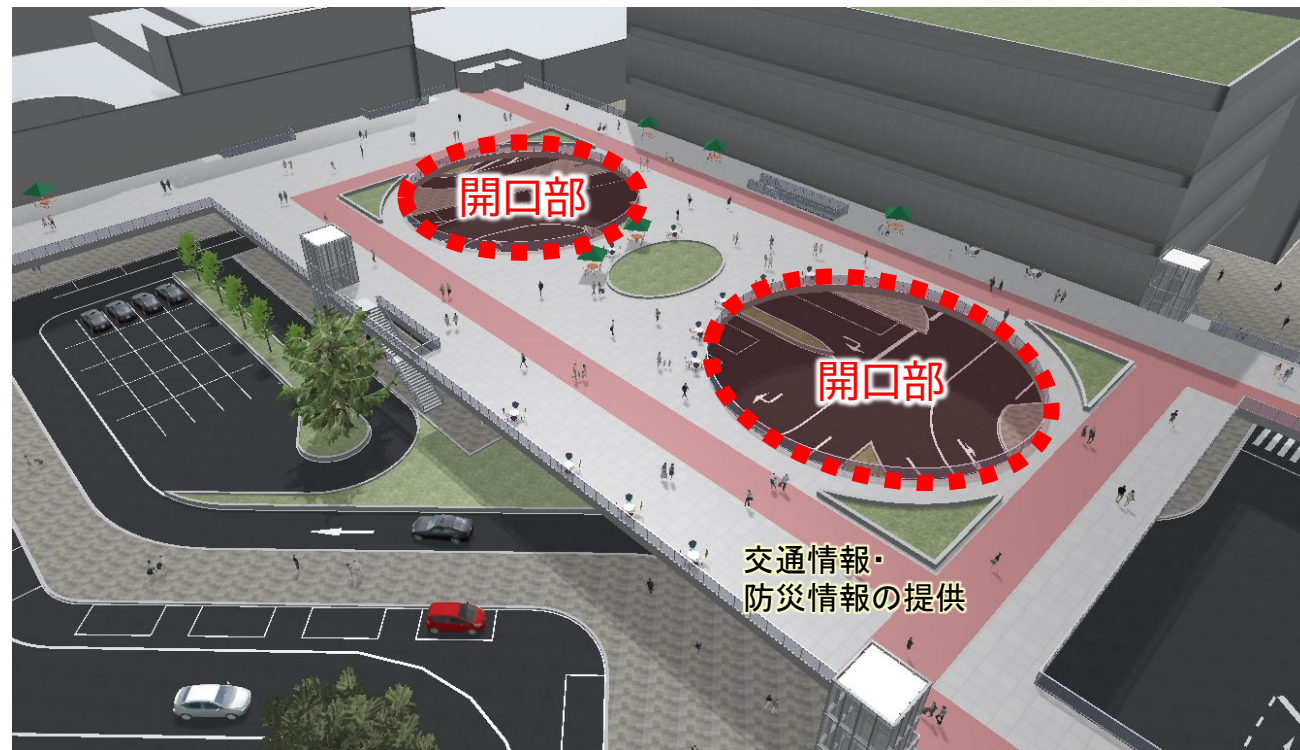
■ 呉交通ターミナルにおけるコスト増額要因

項 目	増額費用	備 考
(1)デッキ形状の変更	30億円	①防災拠点及び賑わい空間として活用出来る形状に変更
(2)防災機能及び利便性を確保した施設を追加	84億円	①災害対応車両や賑わい空間活用が可能な車路を整備 ②南北自由通路の計画に合わせてJR駅舎へ 暫定接続通路を整備 ③歩行者通路における庇と防災一時避難エリア(賑わい空間活用)の庇を整備 ④デッキの維持管理のしやすさを考慮し、桁カバーを整備 ⑤利用者の利便性を考慮し、エスカレーターを整備
(3)労務費・物価上昇による増加	16億円	①事業化(令和3年度)後の資機材・労務単価上昇
合 計	130億円	

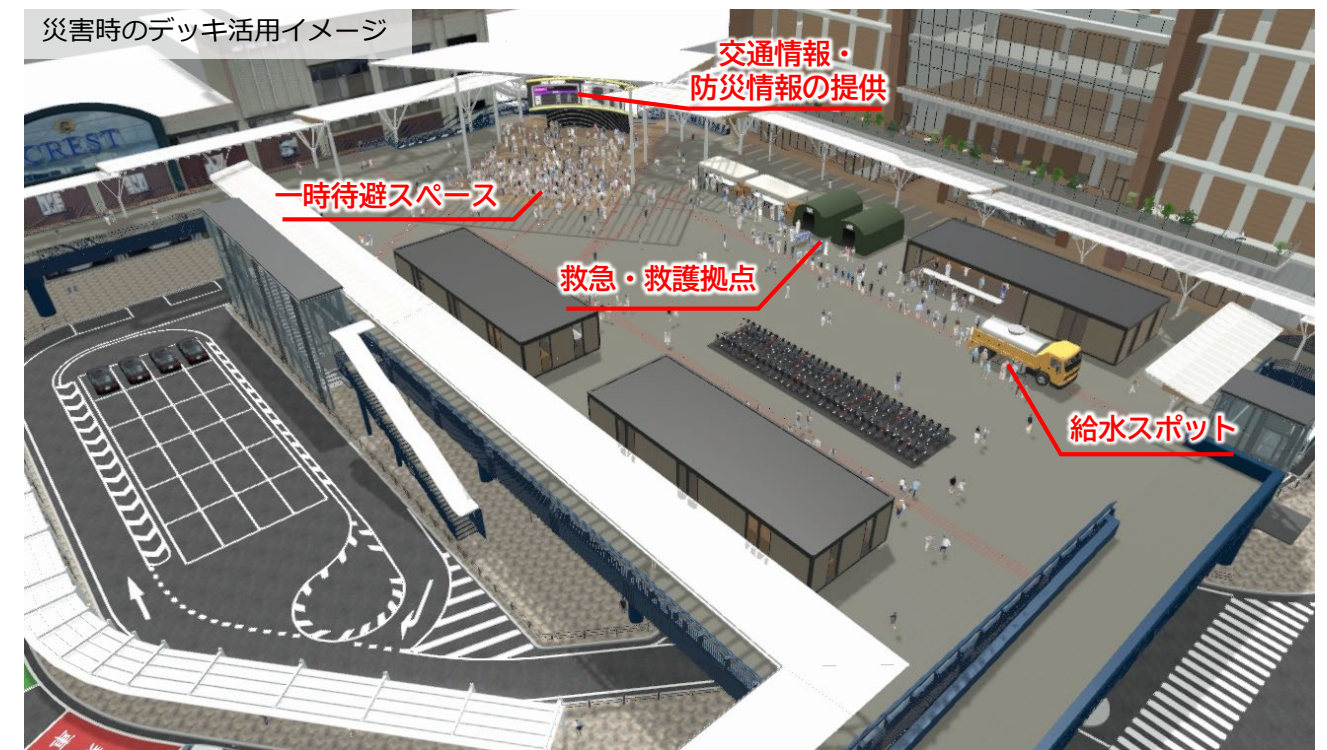
コスト増加の要因 ～(1)デッキ形状の変更～

- デッキは、帰宅困難者の一時退避スペース、給水スポット、救急・救援の活動拠点等、防災拠点としての活用が可能となるように、開口部について閉口が必要となりました。
- 平常時やイベント時には、憩いや賑わいの場として機能する空間の創出が期待されます。

約30億円の増額



開口部
を閉口



平常時・イベント時は、憩いや賑わいの場として活用

交流や休憩ができるベンチ



移動販売(キッチンカー等)による賑わい



イベントとして活用



イベントとして活用

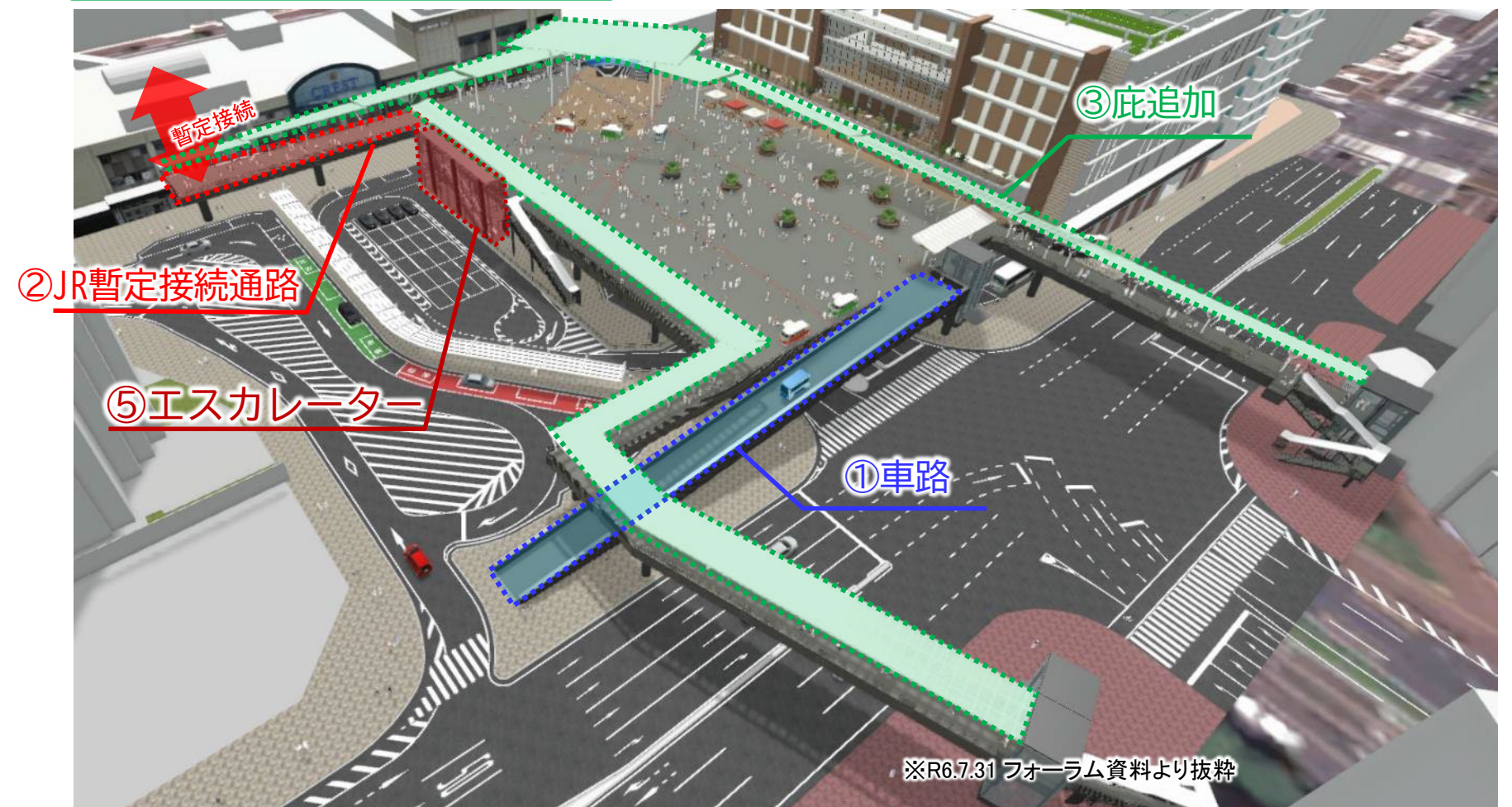
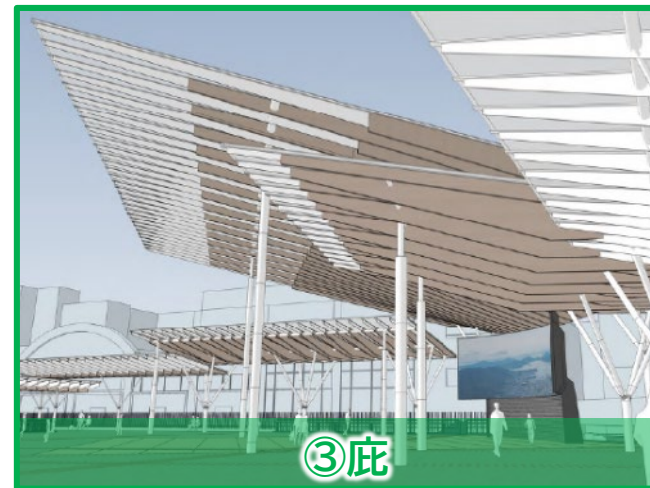
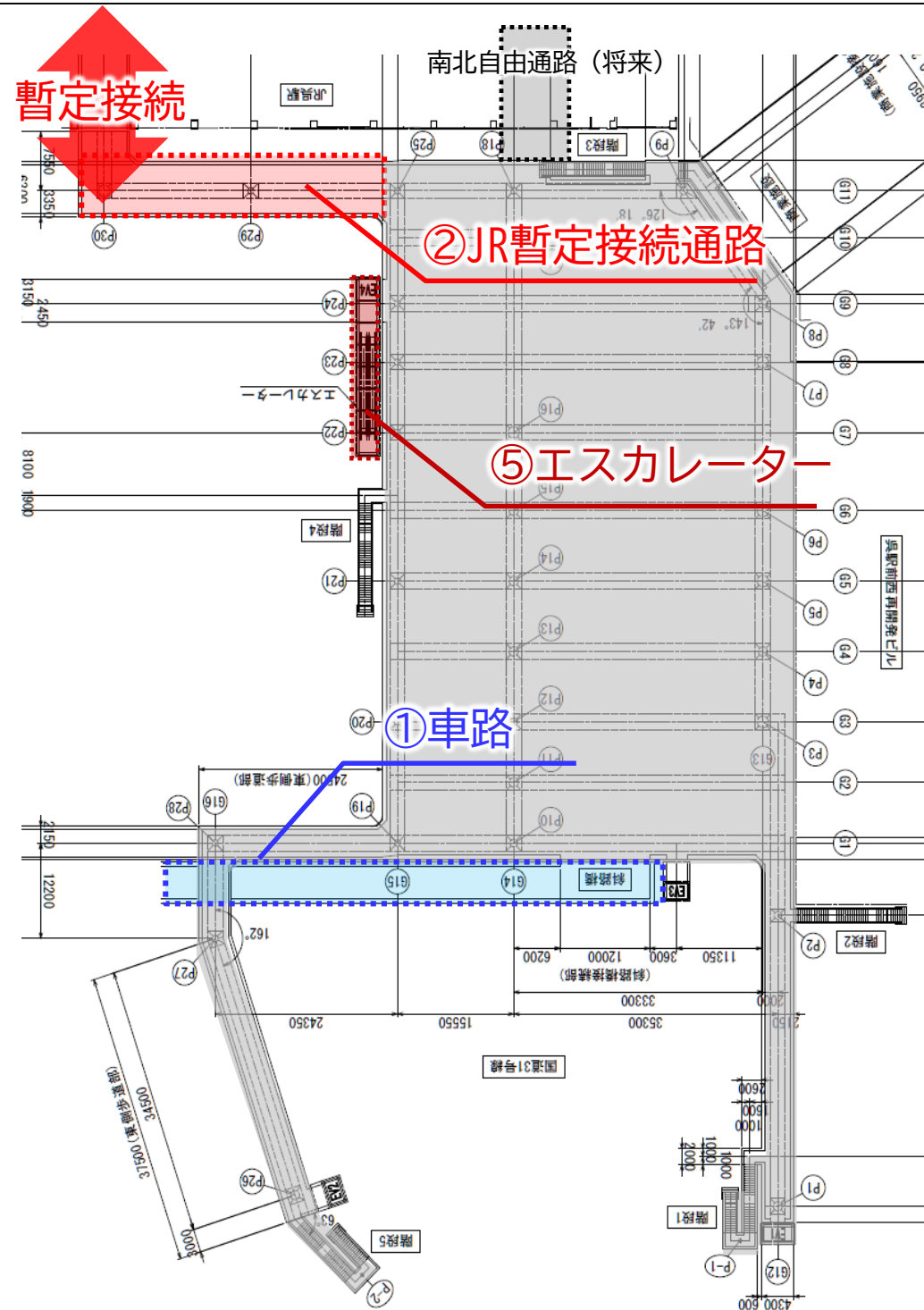


コスト増加の要因 ～(2)防災機能及び利便性を確保した施設を追加～

・ 平常時や災害時における、防災機能及び利便性を確保するため、以下の施設が必要となりました。

- ① 災害対応車両や賑わい空間活用が可能な車路を整備
- ② 南北自由通路の計画に合わせてJR駅舎へ暫定接続通路を整備
- ③ 歩行者通路における庇と防災一時避難エリア（賑わい空間活用）の庇を整備
- ④ デッキの維持管理のしやすさを考慮し、桁カバーを整備
- ⑤ 利用者の利便性を考慮し、エスカレーターを整備

約84億円の増額



※R6.7.31 フォーラム資料より抜粋

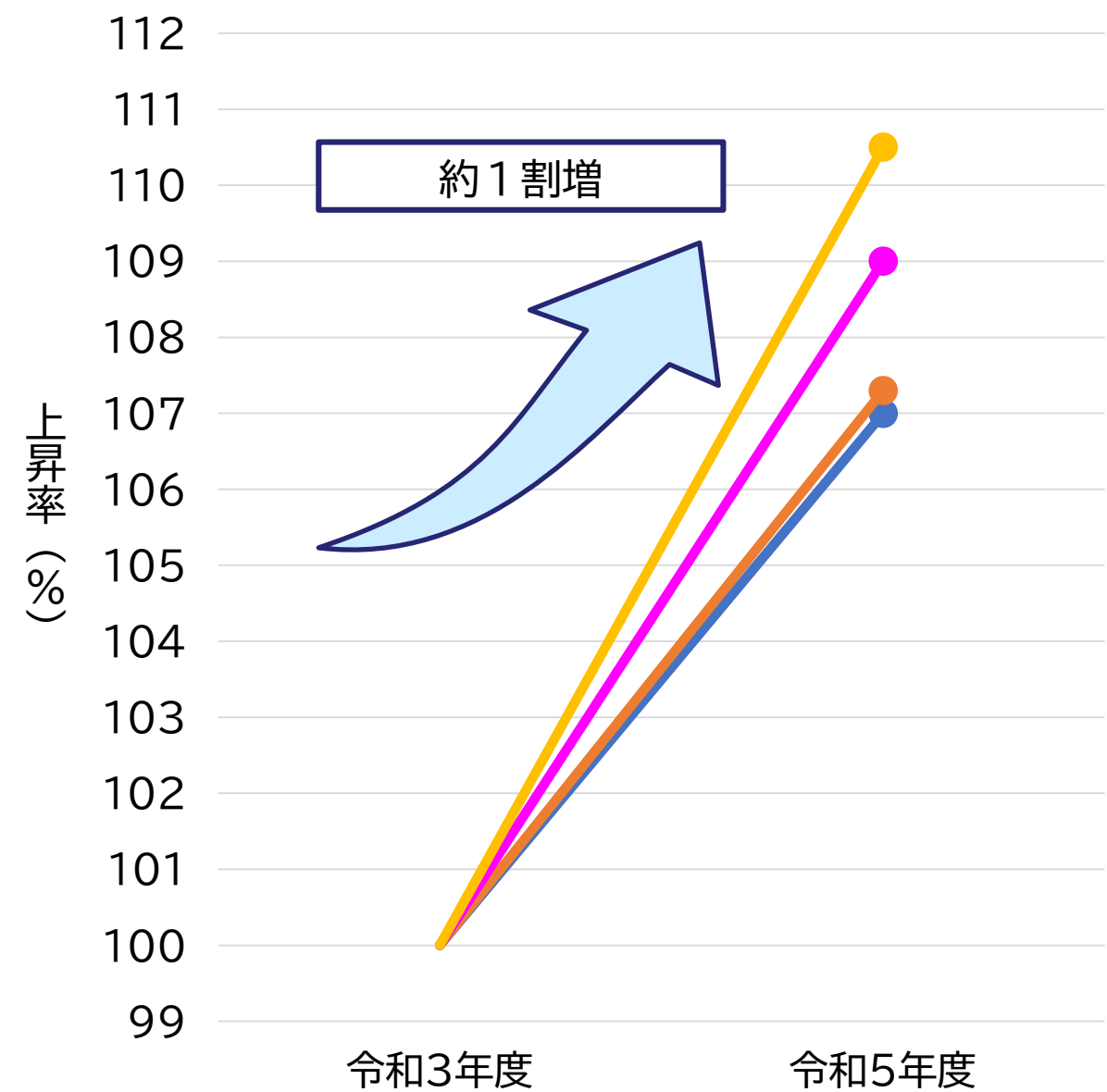
※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。

コスト増加の要因 ～(3)労務費・物価上昇による増加～

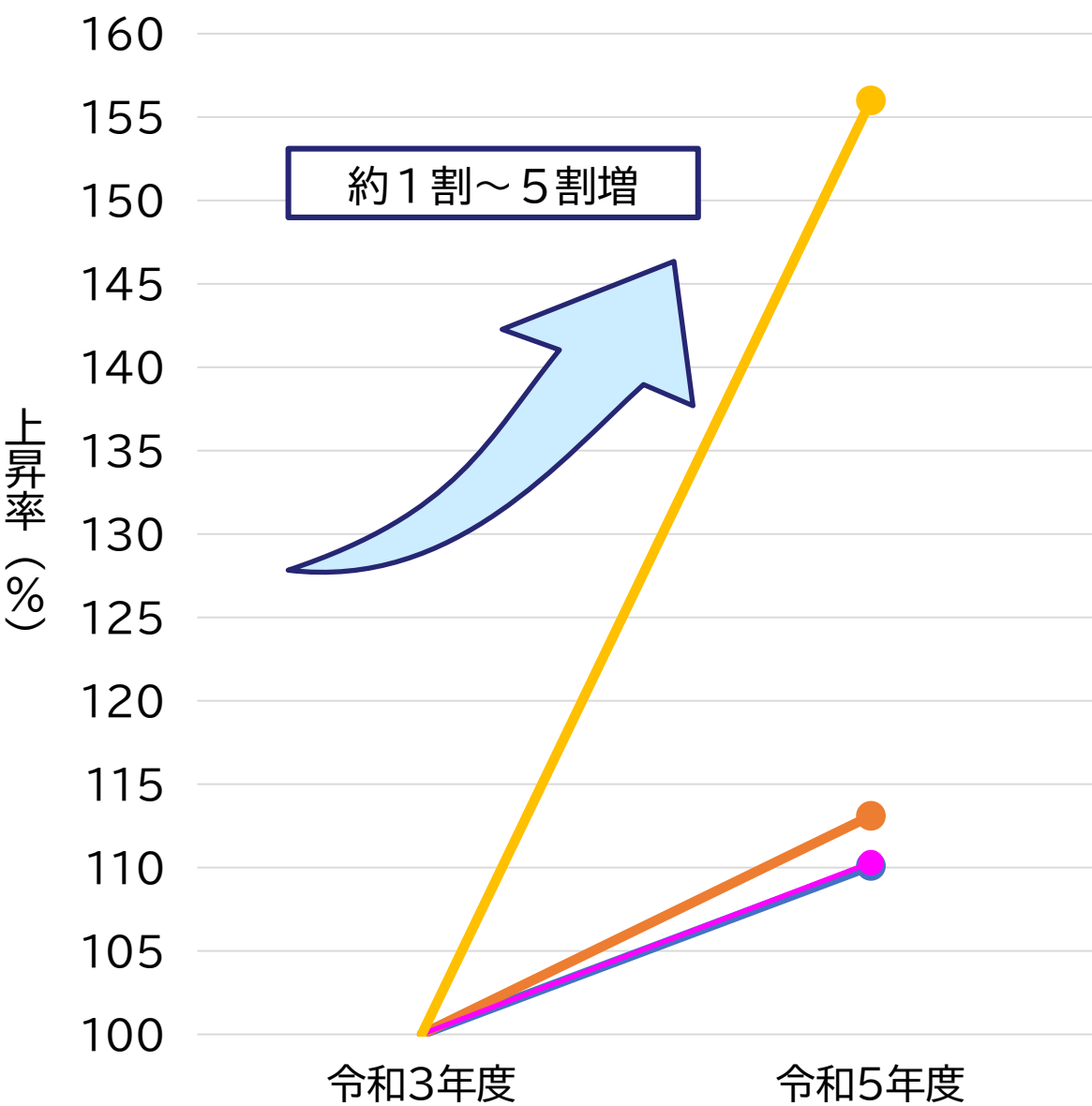
・ 事業化時（令和3年度）後の資機材・労務単価上昇により、増額の必要が生じました。

約16億円の増額

■ 労務単価の伸び率（広島県）



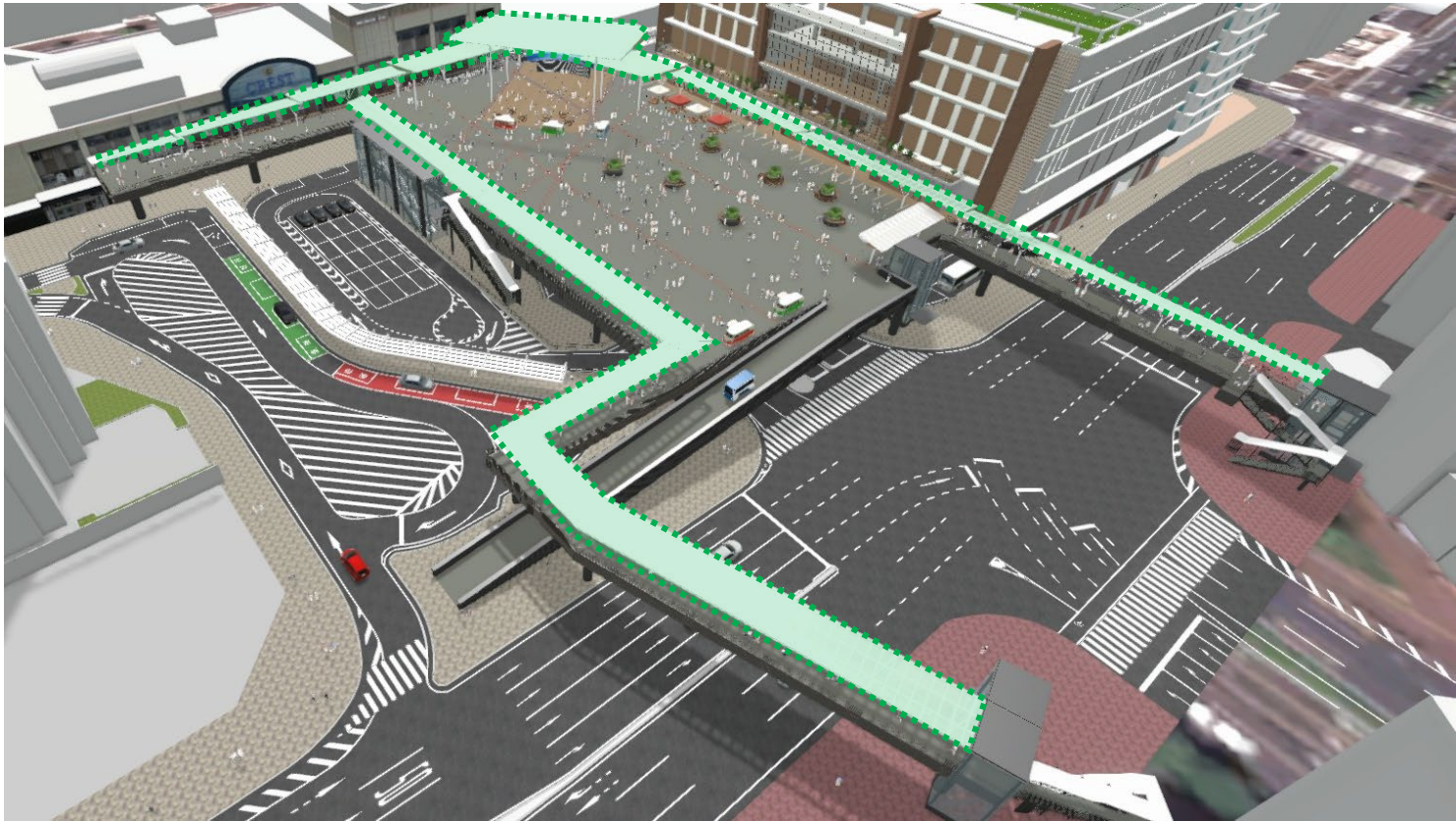
■ 主要建設資材単価の伸び率（広島県）



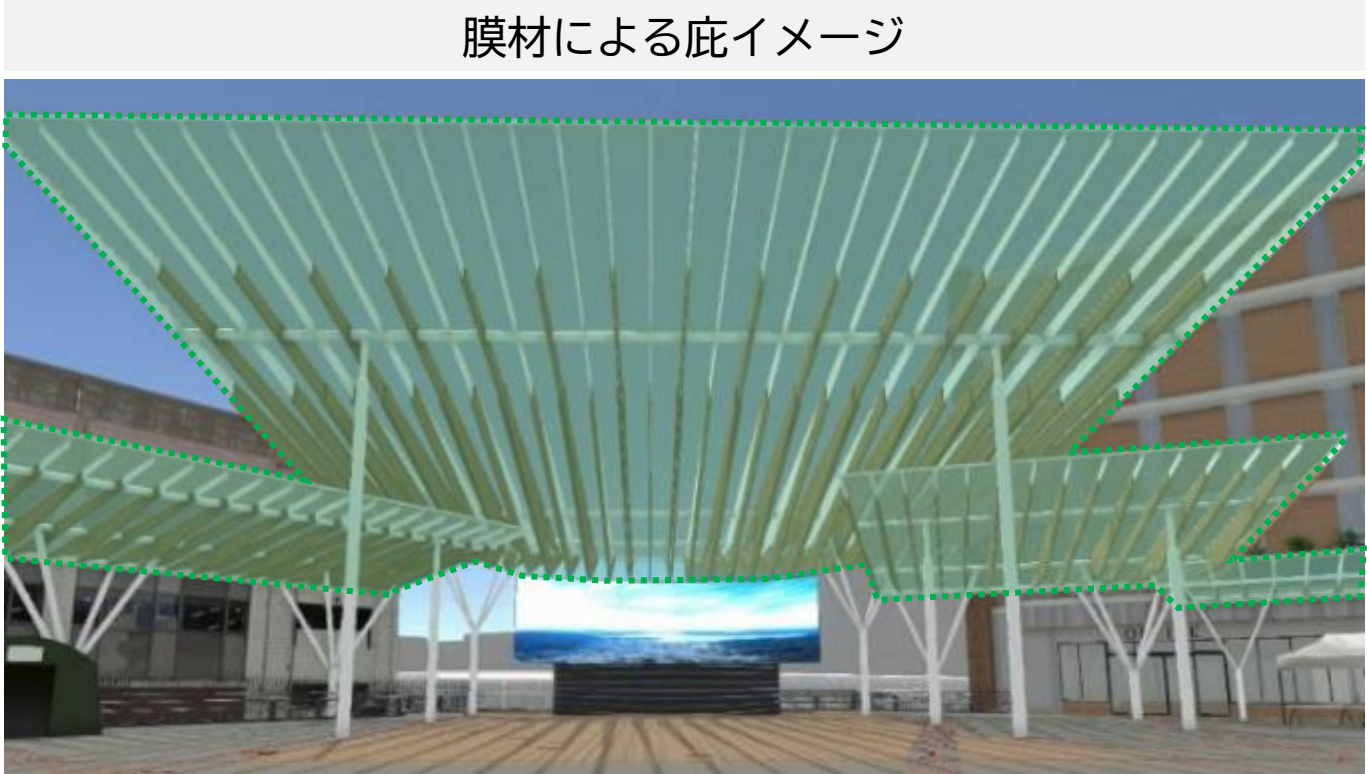
コスト縮減に対する取り組み ～底の材料～

- 底の材料には、ガラス屋根やハニカムパネルと比較して重量が軽い膜材を採用します。
- 膜材を採用することで、底のコスト縮減を実現します。

約4～20億円の縮減



膜材による底イメージ



ガラス屋根（比較①）



ハニカムパネル屋根（比較②）



	底種類	合計 (百万円)	コスト縮減額 (百万円)
採用	膜材	2,025	-
比較①	ガラス屋根	4,050	-2,025
比較②	ハニカムパネル屋根	2,430	-405

整備イメージ



※今後の検討、周辺開発状況及び関係機関との協議調整により変更する場合があります。